

光受寺通信

NO.201

R7101 発行

発行元 光受寺



先日、ペット犬を車内に4時間ほど放置したということで、動物保護法違反(虐待)で書類送検されたという新聞記事を読んだ。近くを通りかかった人がぐったりしている犬を見つけ警察に連絡し発見したが、幸いにも命だけは助かったという。私はかねてから、「動物保護法」が、「人間による動物の虐待防止・人間と動物の共生を目指し制定された法律」であるということはなんとなくは認識していたものの、具体的にはよく分からなかった。しかし、我が家にもペットの鳥がいることから無関心ではられない思い、ネットで調べてみた。

対象となる動物は、その人が占有している哺乳類、鳥類、爬虫類ということになっており、これらの動物には「適切な環境を与え、周辺環境への配慮をすること」などが基本的な飼育条件となっていた。

はたして我が家の鳥はこの条件を満たしているのだろうか。本来鳥は、大自然の中で自由に飛んでこそだと思っただが、鳥かごで飼うこと自体虐待に相当するようにも思えてきた。

さらに私たちの日常はといえば、牛や豚や鶏の命を、毎日数知れないほど奪って生きている。まさに**人間の都合によつての**動物の命が図られている事実にも気づかされてくるのだ。ましてや蚊や蟻、百足の命などもなれば人間の目には微塵も見えてはいないのだ。むしろ殺すことに快感を覚えるくらいのものだ。

本来、**地球に生きるすべての命は、人間も含め全て平等でなければならぬ**。自分の都合に合わせた「感謝」だけで決して済ましてはならない重い問題だと思う。「動物保護法」はこの基本を改めて考えてみる良い機縁となった。

九十歳

現役理容師として今を生きる



大江緋佐子さん

今年、六月の誕生日を迎えて九〇歳になったという緋佐子さん。理容師となつて七十二年目を迎える。昭和二十三年に結婚。三人の女の子をもつけたが、昭和五十八年には夫の博和さんを五十一歳という若さで亡くしたという。この時緋佐子さん四十七歳。末子は中学二年生の育ちざかりであつたという。

そして、その後の苦勞の多い生活を支えてきたのは、やはりご主人と共に営んできた理容師としての道であつた。以来、常連のお客さんを中心に、今も元気に営業が続けられている。シャキ、シャキと心地よい鉄の音が今日も店に響く。

現在では孫が六人、ひ孫が五人いるという。お正月ともなれば、親族全員が集合する。その数なんと二十三人。一月一日には、ご主人の月命日でもあり、お参りに伺うのだが、仏間八畳と隣の部屋八畳はすし詰め状態となつてしまう。集合のタイミングさえ言えばみんな一緒にお勤めをするのだが、そんな様子を嬉しそうに見つめる緋佐子さんを見ると、私もなぜか幸せな気分になつてしまふのだ。



今日も元気に腕を振るう
緋佐子さん。若々しいですね。

緋佐子さんに七十年以上も続けていられた秘訣は？とお尋ねすると、「健康の為ですかね」と答えられる。私が緋佐子さんを見ていて思ふことは、体の健康を願われていることはもちろんであるが、その健康の源になっているのは、やはりお店というホームグラウンドがあるからだろうと思つている。自分が自分でいられる場所、生きる意欲が感じられる場所と、長い歴史の中で育まれてきたものがあるからではないだろうか。お客さんとの会話を楽しみ、通りすがりの人と言葉を交す。そんな平凡な日常に心の安らぎと、今では失われていく大切なつながりが感じとられ、それが生きる喜びと健康の原点となつていないかと思われるのだ。

大江家の家族、親族のつながりの深さも、まさに緋佐子さんの願いを映し出しているように思えてくる。そして今、理容師になることを勧めてくれた親と、共に歩み幸せな人生を与えてくれたご主人への感謝の思いが尽きないという。

門徒会からのご報告

去る九月二十日(土) 午後二時～五時十分まで「丸福寿し」において門徒研修会・教務所長巡回が開かれました。

光受寺からは住職および門徒会員である責任役員の水野日出夫様、総代の三輪豊様に「ご出席いただきました」。



研修会においては「岐阜高山教区 宗祖親鸞聖人ご誕生八百五十年・立教開宗八百年協賛事業計画」に向けて素案がまとめられ、具体的なテーマとして「南無阿弥陀仏」と生まれたことの意味をたずねていく」とされていることから、その具体的重点施策の一つである「**同朋唱和の推進**」についての研修となりました。

講師として廣専寺住職によって『正信偈・二海 念仏 弥陀成仏く六首の和讃』をプロジェクターを使ってご指導いただきました。

二〇二八年の三月二十八日(日)には高山別院において音楽法要が、二〇二八年五月一日(日)は岐阜別院において法要が執り行われる予定です。その折にはぜひご参拝いただき、聖人のご遺徳を偲ながら、正信偈を唱和したいものです。

その後、教務所長からの来年度の宗務改革等についての報告があり、有志による「門徒との懇親会となりました。光受寺からは住職が参加いたしました」。

自力とは

自分の努力を誇つていく道です。

他力とは

努力できる自分を喜んでいく道です。

宮城 顕

自分の行いを尊び、その力を誇るのが自力、努力できるといふ恵まれた状況そのものに感謝し、喜ぶのが他力であると示しています。

自らは自分の能力を頼り、その功績を自慢する生き方「自力」と、仏の慈悲という外部の力に支えられ、そのおかげで努力できるという恵みを喜ぶ生き方「他力」との違いを対比的に表現されているのです。

今年の報恩講は

第一日曜日(7日)に変更となりました。

前年度の総会においてご承認いただきましたように今年の報恩講は**第二日曜から第一日曜へと変更**となりました。変更理由は、報恩講当日に市のマラソン大会が開かれ、交通規制が引かれることから、参拝に支障が生じるからということです。

本年も多くの方にお参りいただきますように。

お知らせ

お寺サロン……………十月十六日(木) 午後1時半より

会場 廣専寺

光受寺学習会……………十月十八日(土) 午後2時より

「歎異抄」第14章

YouTube

新聞原稿募集中……………内容は自由です。ご協力よろしく

お願いします。